

宮古市埋蔵文化財調査報告書 75

# 宮古市遺跡分布調査報告書 5

2008.3

宮古市教育委員会(岩手県)



# 宮古市遺跡分布調査報告書 5

2008.3

宮古市教育委員会(岩手県)

## 序 文

遺跡分布調査は遺跡の所在を確認し、埋蔵文化財に関する資料の整備のため行われています。

遺跡には先人の営みの痕跡が、遺構や遺物となって残されています。また遺跡は各時代の様々な遺構や遺物がまとなり、また複雑に重なりながら長い年月を経て我々の時代に残されてきたものです。その成り立ちは一様でなく、一つとして同じ遺跡はありません。従ってそれぞれの遺跡すべてが、地域の歴史を知るための貴重な財産であると考えられます。

基礎的な分布調査の実施により遺跡の所在の把握に努め、遺跡保護の基礎資料を作成することは、遺跡を後世に伝えていくために重要なことでもあります。文化財保護の基礎資料として、本書が活用されることを望み序文といたします。

平成20年3月

宮古市教育委員会

教育長 中屋 定基

## 例 言

1. 本書は宮古市田老地区の遺跡分布調査の報告書であり、平成18年度に実施した田老地区の南側にある遺跡の分布状況について報告するものである。なお、遺跡分布調査は平成18年度から5ヵ年計画で実施している。
2. 報告された遺跡は、あくまでも分布調査実施時点における遺跡の分布と所在を示したものである。
3. 調査の主体は宮古市教育委員会である。調査および本書の執筆、編集は安原が担当し、文化課職員がこれを補佐した。
4. 本文中の遺跡位置図は、北上山系開発調査図(原図縮尺1/5,000)を用いている。
5. 本調査ならびに本報告書作成にあたり、次の方々からご指導、ご教授をいただいた。記して謝意を申し上げます。(敬称略)  
斎藤 英樹 佐々木 健 赤沼みちる
6. 本調査によって採取された資料は宮古市教育委員会が保管する。

## 目 次

序文

例言

目次

I 調査経過	1
1 調査に至る経過	1
2 調査の目的	1
3 調査計画	1
4 調査の概要	2
5 調査体制	2
II 遺跡の立地と環境	2
1 田老地区の地形的環境	2
III 調査方法	3
1 調査の方法	3
2 調査遺跡と出土遺物	5

## 挿図目次

第1図	調査地区区分図	4	第19図	神田北遺跡採取遺物	17
第2図	調査地区位置図	4	第20図	向桑畑地区遺跡分布図	18
第3図	越田松長根 I 遺跡分布図	5	第21図	八ツ石遺跡採取遺物	18
第4図	越田松長根 I 遺跡採取遺物(1)	6	第22図	笹見平地区(1)・上小田代地区(1)・ 篠倉地区遺跡分布図	20
第5図	越田松長根 I 遺跡採取遺物(2)	6	第23図	七滝地区・笹見平地区(2)遺跡分布図	21
第6図	青砂里 I 遺跡採取遺物	8	第24図	館森遺跡採取遺物	21
第7図	真崎遺跡分布図	9	第25図	三本木遺跡採取遺物	21
第8図	真崎遺跡採取遺物	9	第26図	養呂地地区・上小田代地区(2)・小田 代地区・辰の口地区遺跡分布図	25
第9図	末前地区遺跡分布図	10	第27図	養呂地 I 遺跡採取遺物	25
第10図	末前Ⅱ遺跡採取遺物	11	第28図	辰の口 I 遺跡採取遺物	25
第11図	末前Ⅲ遺跡採取遺物	11	第29図	小田代 I 遺跡採取遺物	25
第12図	末前Ⅳ遺跡採取遺物	11	第30図	上小田代 I 遺跡採取遺物	25
第13図	末前Ⅴ遺跡採取遺物	11	第31図	上小田代Ⅲ遺跡採取遺物	25
第14図	立腰・青倉地区遺跡分布図	14	第32図	榎内 I 遺跡分布図	28
第15図	立腰 I 遺跡採取遺物	14	第33図	榎内 I 遺跡採取遺物(1)	29
第16図	立腰Ⅱ遺跡採取遺物	14	第34図	榎内 I 遺跡採取遺物(2)	29
第17図	立腰Ⅲ遺跡採取遺物	14			
第18図	和蒔・八幡水神地区遺跡分布図	17			

## 写真図版目次

写真図版1	越田松長根 I 遺跡採取遺物	7	写真図版18	八ツ石遺跡採取遺物	18
写真図版2	越田松長根 I 遺跡 遠景(南から)	7	写真図版19	向桑畑 I 遺跡 現況(西から)	19
写真図版3	越田松長根 I 遺跡 遠景2(南から)	7	写真図版20	笹見平 I 遺跡採取遺物	20
写真図版4	青砂里 I 遺跡 遠景(南東から)	8	写真図版21	館森遺跡 遠景(東から)	22
写真図版5	真崎遺跡現況(東から)	9	写真図版22	館森遺跡 堀状跡(東から)	22
写真図版6	真崎遺跡採取遺物	9	写真図版23	三本木遺跡 遠景(東から)	22
写真図版7	末前Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ遺跡採取遺物	11	写真図版24	採取遺物	25
写真図版8	末前地区 遠景(東から)	12	写真図版25	小田代地区 遠景(東から)	26
写真図版9	末前Ⅱ遺跡 現況(西から)	12	写真図版26	養呂地地区 遠景(東から)	26
写真図版10	末前Ⅲ遺跡 現況(東から)	12	写真図版27	上小田代Ⅲ遺跡 現況(西から)	26
写真図版11	末前Ⅳ遺跡 現況(北から)	13	写真図版28	上小田代Ⅱ遺跡 現況(東から)	27
写真図版12	立腰 I・Ⅱ・Ⅲ 遺跡採取遺物	14	写真図版29	辰の口 I 遺跡 現況(北から)	27
写真図版13	青倉 I・立腰Ⅲ遺跡 遠景(東から)	15	写真図版30	上小田代 I 遺跡 現況(西から)	27
写真図版14	立腰 I 遺跡 現況(西から)	15	写真図版31	榎内遺跡 I 遠景(南から)	30
写真図版15	立腰Ⅱ遺跡 現況(東から)	15	写真図版32	榎内 I 遺跡採取遺物(1)	30
写真図版16	神田北遺跡採取遺物	17	写真図版33	榎内 I 遺跡採取遺物(2)	30
写真図版17	八ツ石遺跡 現況(南から)	18			

# I 調査経過

## 1 調査に至る経過

平成17年6月に宮古市と田老町、新里村が合併し、新しい宮古市が発足した。

これ以前から合併に向けた事務レベルでの検討会が各市町村とのあいだで開かれ、この中で市町村での遺跡の取り扱いについて協議がされた。中でも、基礎的な情報である遺跡の所在の把握がまだ不十分と想定される地区について、この把握にどう努めるかが合併後の課題として持ち上がった。

課題となった遺跡の所在把握は、遺跡の保護上不可欠であり速やかな把握が必要との判断から、合併の次年度、平成18年度から分布調査を実施することとなった。

## 2 調査の目的

遺跡の適切な保護のため、これまで把握されていなかった遺跡の所在や周知遺跡の範囲等の確認を行い、遺跡保護の基礎資料を作成するものである。市内には現在580箇所の遺跡が確認されている。このうち田老地区には平成18年度時点で63箇所が所在する。これは昭和36年～昭和49年までに行われた分布調査の成果に基づいたものである。

宮古市をはじめ各市町村でこれまでに数多くの発掘調査が行われ、その結果遺跡に関する新たな知見が得られてきた。この発掘調査によって得られた情報から遺跡のあり様について、現在においてより詳しい想定が可能な状況となった。そこで以前の分布調査の経過や発掘調査の成果を考慮しつつ、改めて遺跡の分布状況について検討し、調査を実施するものである。

また、公共事業工事や民間事業者による開発行為により遺跡保護のための調整が日頃計られている。これらの調整協議にあたり、より精度の高い対応が求められるなか、各遺跡のより詳しい情報が必要となっていることも調査実施の目的の一つである。

## 3 調査計画

遺跡分布調査は5ヵ年を計画に実施を予定している。平成18年度から調査を開始し、19年度までの2ヵ年を田老地区、平成20、21年度に新里地区の調査を予定している。平成22年度はそれまでの調査成果について補足調査を行う。調査成果については、平成19年度は田老地区南側について報告する。平成21年度には田老地区の北側と新里地区の分布状況について報告を予定している。平成22年度には5ヵ年の調査成果をまとめた報告を予定している。

## 4 調査の概要

(平成18年度)

分布調査 平成18年12月20日～平成19年1月25日

室内作業 平成19年1月5日～平成20年2月28日

調査地点 宮古市田老字椋内、神田、和蒔、養呂地、青倉、立腰、上小田代、辰の口  
小田代、篠倉、笹見平、七滝、和山、末前、小林、八幡水神、青砂里、乙部  
越田、駿達、和野、青野滝、青野滝南、青野滝北、重津部北、新田、長畑  
乙部野、胡桃畑

## 5 調査体制

調査主体 宮古市教育委員会 教育長 中屋 定基

調査総括 元田 秀一 “ 文化課長(平成19年度～)

関沢 敏 宮古市教育委員会 文化課長(平成17年度～平成18年度)

事務担当 箱石 憲一 “ 文化課副主幹(平成17年度～)

竹下 将男 “ 文化課文化財担当長(平成19年度)

“ 文化課文化財係長(平成17年度～平成18年度)

高橋憲太郎 “ 文化課主査(平成17年度～)

調査員 鎌田 祐二 “ 文化課主任文化財調査員

加納 由美 “ 文化課主任文化財調査員

安原 誠 “ 文化課主任文化財調査員

長谷川 真 “ 文化課主任文化財調査員

阿部 豊 “ 文化課埋蔵文化財調査員

江口 邦泰 “ 文化課埋蔵文化財調査員

分布調査・資料整理作業員

佐々木信晴 扇田正義 鈴木祥一 米澤豊 崎田妙子 佐々木厚子

## II 遺跡の立地と環境

### 1 田老地区の地形的環境

田老地区の地形は、大勢として西側が高く、東側に向って低くなる。西側は高山性の山地、



中・低山性の山地となり、東側は丘陵と区分される。この地勢は地質の違いも起因しており、西側は花崗岩類、東側は古生界堆積岩類を起源とすることにもよる。

山地となる西側は峠の神山（標高1229.7m）をはじめメズクメ山、刺柄岳山、明神山などの峰々が続く。東側の丘陵は小本丘陵と呼ばれ、太平洋の海岸線に沿って見られる。海岸線から幅3～4kmで、岩泉から宮古まで南北に及び確認できる。小本丘陵は海岸段丘が開析されて形作られたものである。岩泉町では広い段丘面を見ることができ、田老地区においてはわずかに段丘面は残すのみである。

また田老地区には大きな河川がなく、河川の浸食作用によって形成される小規模な河岸段丘がわずかに見られるほかは台地に相当する地形はごく僅かである。この台地のほかに平野や低地の形成は田老川最下流部の三角州性平野のほかは、河川に沿って形成された谷底平野のみである。田老地区において、遺跡は小本丘陵の段丘面と谷底平野に多く分布する傾向が伺える。

〈参考文献〉『北上山系開発地域土地分類基本調査 田老』 1974 岩手県企画開発室

### Ⅲ 調査内容

#### 1 調査の方法

調査は宮古市田老地区を南北に分け、平成18年度は田老地区南側を対象に調査を行った。

踏査は岩手県遺跡情報検索システムや住宅地図、北上山系開発調査図を用いて行った。現地で地形を確認し、遺物の採取を行った。遺物の採取にあたり、数多く遺物が散布する遺跡については、文様が残るものなど時代や時期、その遺跡の状況のある程度想定できるものを選んで採取している。

住民からも可能なかぎり聞き取りを行い、土地の改変状況や遺物の散布状況について情報を収集、分布図作成の参考とした。踏査は周知遺跡とその周辺、及び各地区に点在している畑地を重点的に行った。現況で山林、もしくは以前畑地であったものが山林または荒蕪地となっているような地点については、遺物の採取が難しく遺跡か否かの判断が困難なことから踏査を見送った。

分布調査によって新たに確認された遺跡や範囲に変更等が生じた遺跡については、岩手県教育委員会に届出を行い、岩手県遺跡台帳に掲載されるよう手続きを行う。

採取資料についても関係機関に届出を行い、保管する。



第1図 調査地区区分図



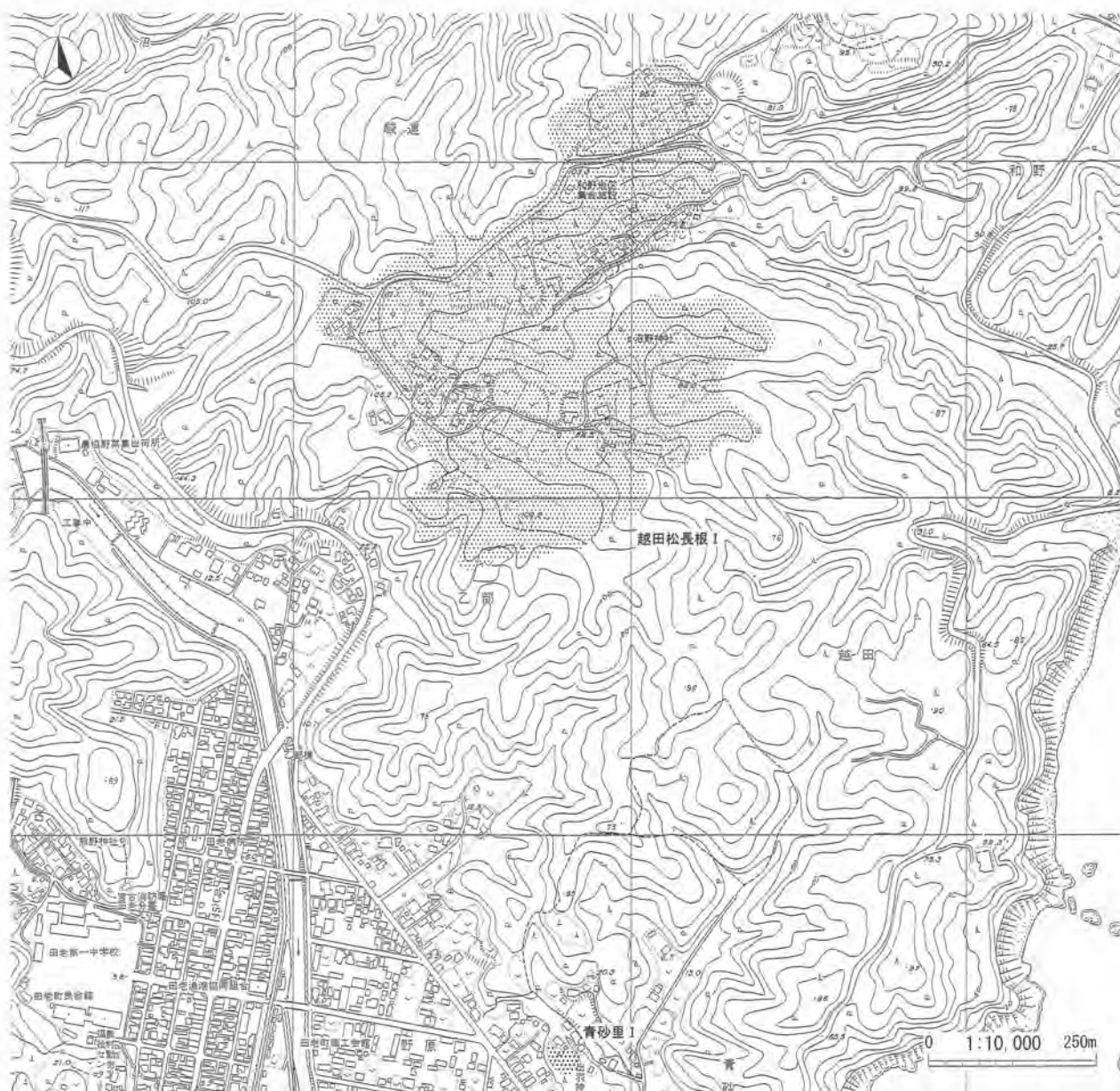
第2図 調査地区位置図

## 2 調査遺跡と出土遺物

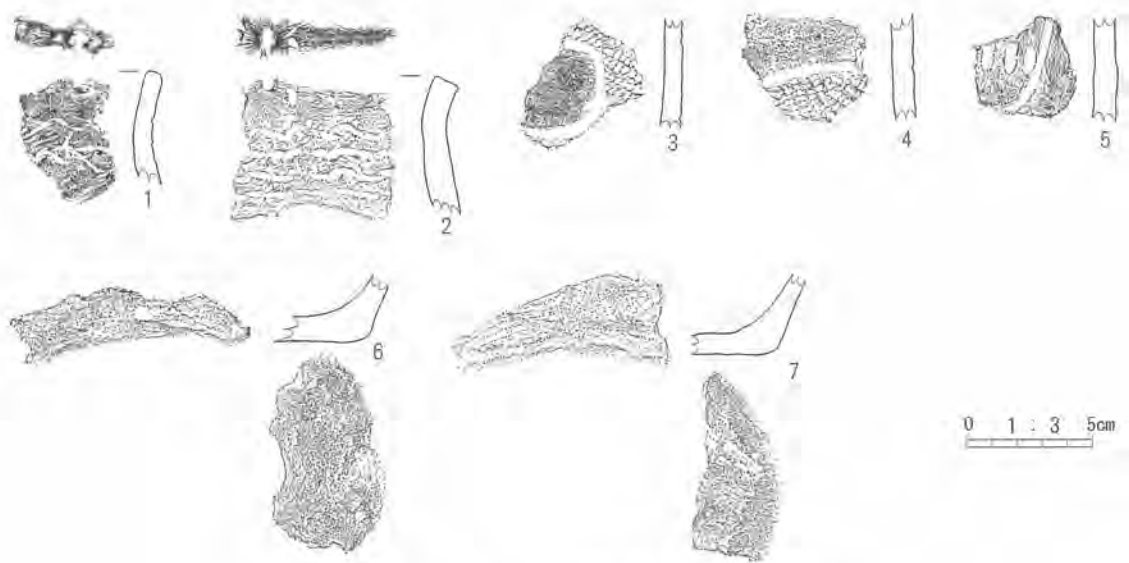
こしだ しまんだつ あおざり  
越田地区・駿達地区・青砂里地区 (第3～8図・写真図版1～6)

こしだ まつながね 1  
●越田松長根 I 遺跡 (遺跡コード KG94 - 0273) (所在地 田老字越田 外)

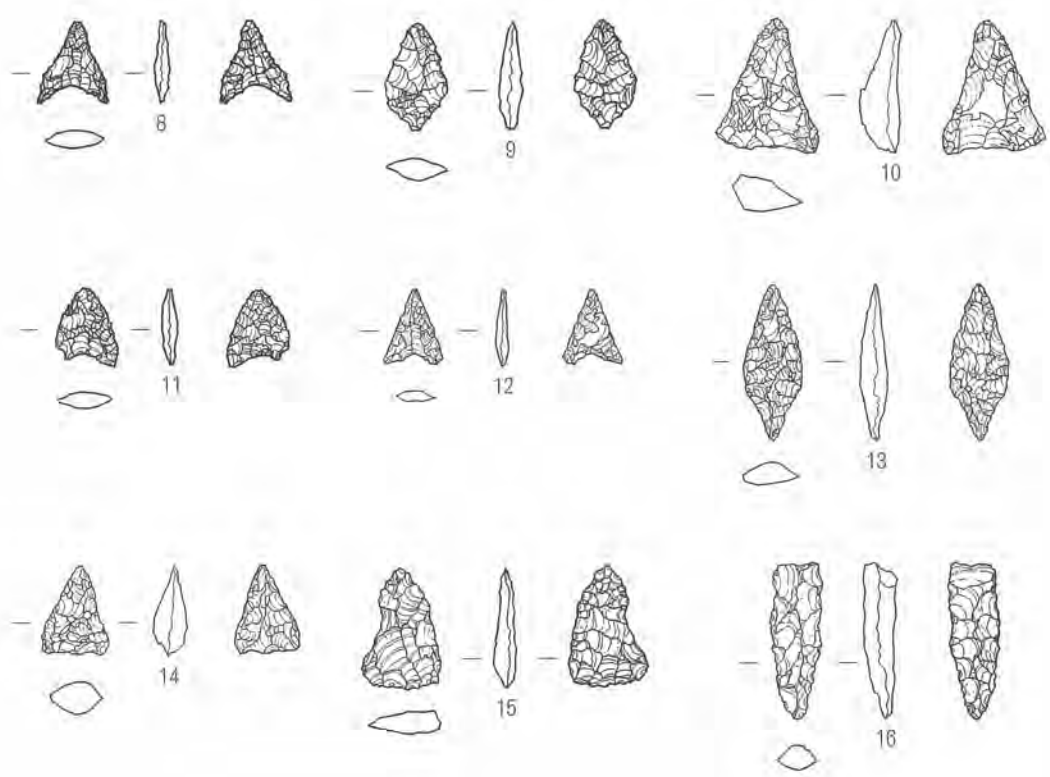
田老地区市街地の北側、長内川の左岸の丘陵上に立地する。越田地区と駿達、和野、乙部地区の一部が遺跡の範囲と想定される。遺跡は、丘陵とこの間にある緩く傾斜する谷部分からなり、この中の畑地から縄文土器や石器などが採取できる。1、2は縄文前期、3～5は縄文中期と考えられる。図示した石器は石鏃で、地権者から遺跡内で採取したものとして寄贈された資料である。



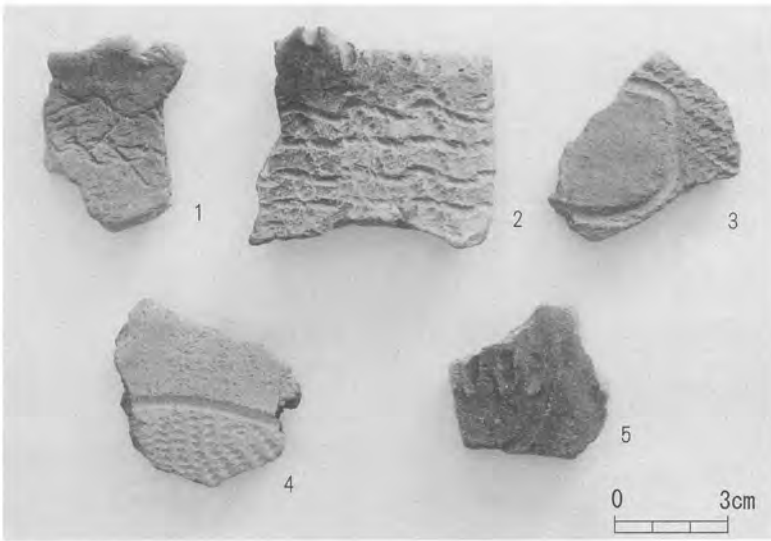
第3図 越田松長根 I 遺跡分布図



第4図 越田松長根 I 遺跡採取遺物(1)



第5図 越田松長根 I 遺跡採取遺物(2)(石鏃・石錐)  
(遺跡地権者提供)



写真図版1 越田松長根 I 遺跡採取遺物



写真図版2 越田松長根 I 遺跡 遠景1  
(遺跡は写真中央やや下・南から)



写真図版3 越田松長根 I 遺跡 遠景2  
(写真全体が遺跡・南から)

従来、越田遺跡と松長根遺跡として登録されていたが、今回の調査で一つの遺跡と判断できることから統合する。遺物の散布状況から両遺跡の範囲が拡張され近接する状況となり、また地形的に連続する位置にあることが統合の理由である。

〔時代〕 縄文時代（前期・中期） 〔種別〕 散布地 〔採取遺物〕 縄文土器、石器

●<sup>あおざり</sup>青砂里 I 遺跡（遺跡コード KG94-1284）（所在地 田老字青砂里 外）

新たに確認された遺跡である。田老地区市街地の北東側、長内川の左岸の丘陵にある。丘陵の西向きの斜面が遺跡であり、現況は宅地と畑地になっている。畑地から縄文土器（1～3）と土師器（4）を採取するが、いずれも小破片のため時期の特定はできなかった。4は甕・胴部である。

〔時代〕 縄文時代、古代 〔種別〕 散布地 〔採取遺物〕 縄文土器、土師器



第6図 青砂里 I 遺跡採取遺物

0 1 3 5cm



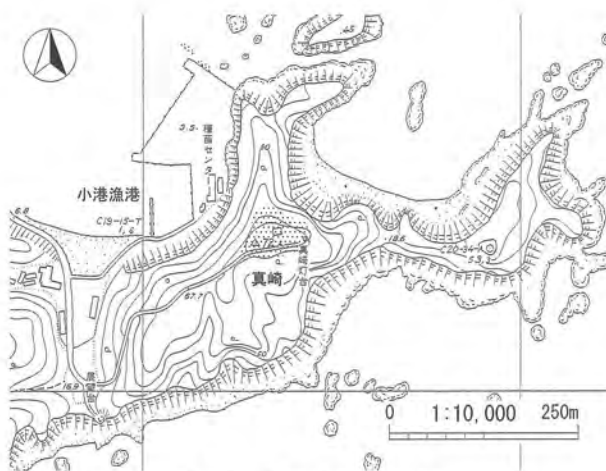
写真図版4 青砂里 I 遺跡 遠景（南東から）  
（手前の畑地が遺跡。）

●<sup>まさき</sup>真崎遺跡（遺跡コード KG95-0021）（所在地 田老字和野）

小港漁港の南側の岬にある。遺跡は岬の最も高い場所にある。眺望が良好であり、遺跡内には真崎灯台が立てられている。現況は公園となっている。遺跡内で一部地面が露出する地点があり、ここで縄文土器（1～5）を採取する。土器について小破片のため時期は特定できなかった。

遺跡の範囲について、現地の状況から北側の斜面部分を範囲から除き変更した。

〔時代〕 縄文時代 〔種別〕 散布地 〔採取遺物〕 縄文土器



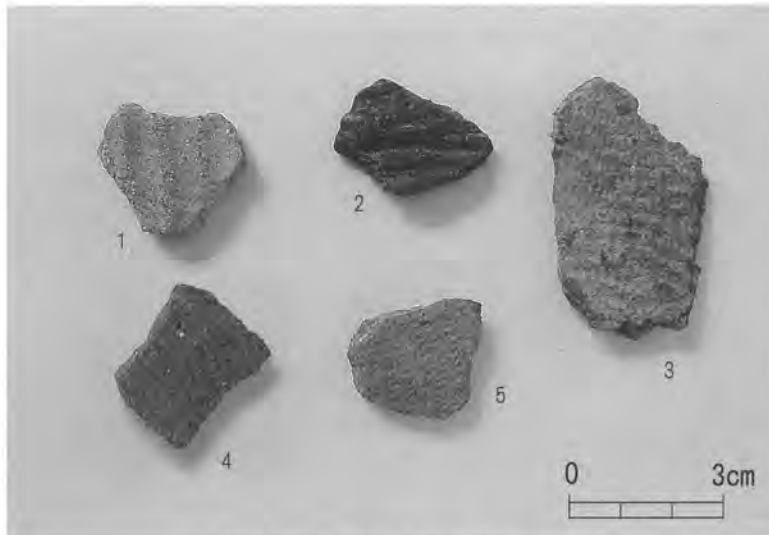
第7図 真崎遺跡分布図



写真図版5 真崎遺跡 現況(東から)  
(写真一帯が遺跡)



第8図 真崎遺跡採取遺物



写真図版6 真崎遺跡採取遺物

すえまゑ      わやま  
**末前地区・和山地区** (第9~13図・写真図版7~11)

● <sup>すえまゑ I</sup>末前 I 遺跡 (遺跡コード KG92-0375) (所在地 田老字和山)

末前遺跡から名称変更する。末前集落を過ぎ県道有芸田老線と末前線林道が交わる地点、神田川の左岸に位置する。

尾根の末端部とその周囲の谷部分が遺跡の範囲と想定される。遺跡の南側、道路に面する地点は水田、その北側の谷部分は荒蕪地となっている。尾根部は雑木林となっており、ここ

では平場状の地形と、これを囲うような堀状の地形が観察できる。谷部分の畑地で縄文土器と石鏃を採取する。採取した土器の時期は小破片のため特定できなかった。

[時代] 縄文時代 [種別] 散布地 [採取遺物] 縄文土器、石器

● <sup>中元末元 2</sup>末前Ⅱ遺跡 (遺跡コード KG93-1100) (所在地 田老字末前)

新たに確認された遺跡である。末前集落の東側、南向きの斜面～緩い斜面に立地する。現況は畑地である。

遺跡北側で鉄滓、遺跡南側の道路に面する地点で縄文土器を採取する(1～4)。1、2、3は貝殻文の土器である。

[時代] 縄文時代(早期)、古代以降 [種別] 散布地 [採取遺物] 縄文土器、鉄滓

● <sup>中元末元 3</sup>末前Ⅲ遺跡 (遺跡コード KG93-1016) (所在地 田老字末前)

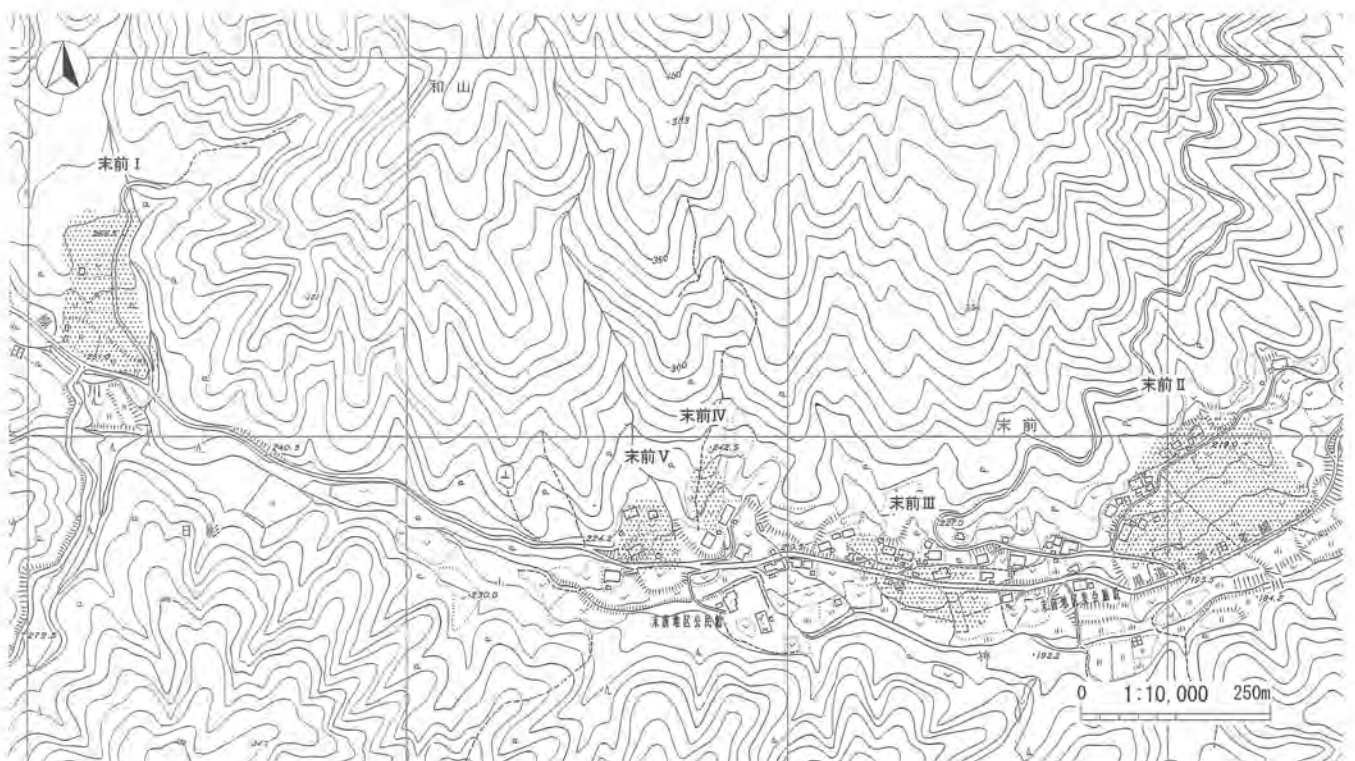
新たに確認された遺跡である。末前集落の中央に位置し、南向きの緩い斜面に立地する。現況は宅地、畑地である。

遺物は、遺跡西端で縄文土器、県道有芸田老線の南側で縄文土器(5～7)と鉄滓を採取する。また、弥生土器(8)と石鏃(9)も採取する。

[時代] 縄文時代、弥生時代、古代以降 [種別] 散布地 [採取遺物] 縄文土器、弥生土器、石器、鉄滓

● <sup>中元末元 4</sup>末前Ⅳ遺跡 (遺跡コード KG93-1003) (所在地 田老字末前)

新たに確認された遺跡である。末前集落の西側に位置し、末前Ⅴ遺跡から尾根を挟んで東



第9図 末前地区遺跡分布図



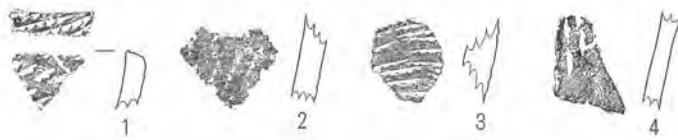
側にある。谷部分が遺跡と考えられ、現況は宅地と畑地である。遺物は縄文土器を採取した(10~16)。14は縄文中期~後期の土器と考えられる。遺物は遺跡の中央付近に多い。

[時代] 縄文時代(中期~後期) [種別] 散布地 [採取遺物] 縄文土器

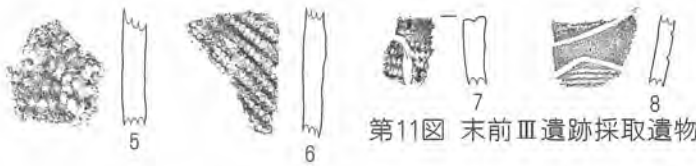
● <sup>すえまへ</sup>末前V遺跡 (遺跡コードKG93-1013) (所在地 田老字末前)

新たに確認された遺跡である。末前集落の西側に位置し、谷部分に遺跡は立地する。現況は宅地と畑地になっている。遺物は県道有芸田老線に隣接した畑地で縄文土器(17~19)を採取するが、時期の特定はできない。

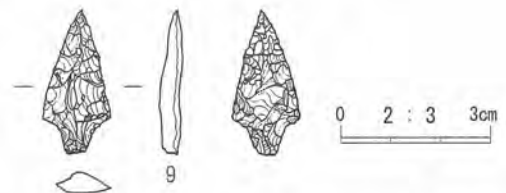
[時代] 縄文時代 [種別] 散布地 [採取遺物] 縄文土器



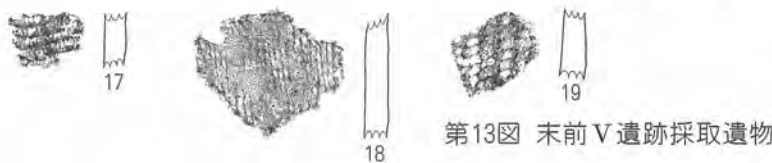
第10図 末前II遺跡採取遺物



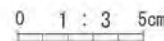
第11図 末前III遺跡採取遺物



第12図 末前IV遺跡採取遺物



第13図 末前V遺跡採取遺物



写真図版7 末前II・III・IV・V遺跡採取遺物



写真図版8 末前地区 遠景（東から）  
（写真手前が末前Ⅱ遺跡、その西側が  
末前Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ遺跡となる。）



写真図版9 末前Ⅱ遺跡 現況（西から）  
（写真一帯が遺跡となる。）



写真図版10 末前Ⅲ遺跡 現況（東から）  
（中央の畑地と奥の住宅付近が遺跡。）



写真図版11 末前IV遺跡 現況(北から)  
(写真一帯が遺跡である。)

<sup>たてこし</sup>立腰地区・<sup>あおくら</sup>青倉地区(第14～17図・写真図版12～15)

●<sup>たてこし 1</sup>立腰Ⅰ遺跡(遺跡コードKG92-2321)(所在地 田老字立腰)

新たに確認された遺跡である。立腰集落の東側に位置し、西側には末前集落に通じる林道がある。

遺跡の南側を養呂地川が流れ、これに向う緩い斜面に遺跡は立地する。現況は畑地で、ここで縄文土器を採取した(1～3)。採取した遺物から時期の特定はできなかった。遺物は遺跡内に広く散布する。

[時代] 縄文時代 [種別] 散布地 [採取遺物] 縄文土器

●<sup>たてこし 2</sup>立腰Ⅱ遺跡(遺跡コードKG92-1285)(所在地 田老字立腰)

新たに確認された遺跡である。集落の中央に位置し、養呂地川の左岸にある。養呂地川と丘陵の間の谷部分が遺跡と考えられる。現況は畑地である。ここで縄文土器(1～3)と土師器(甕・口縁部・4)を採取する。縄文土器は小破片のため、時期の特定はできなかった。

[時代] 縄文時代、古代 [種別] 散布地 [採取遺物] 縄文土器、土師器

●<sup>たてこし 3</sup>立腰Ⅲ遺跡(遺跡コードKG92-1148)(所在地 田老字立腰)

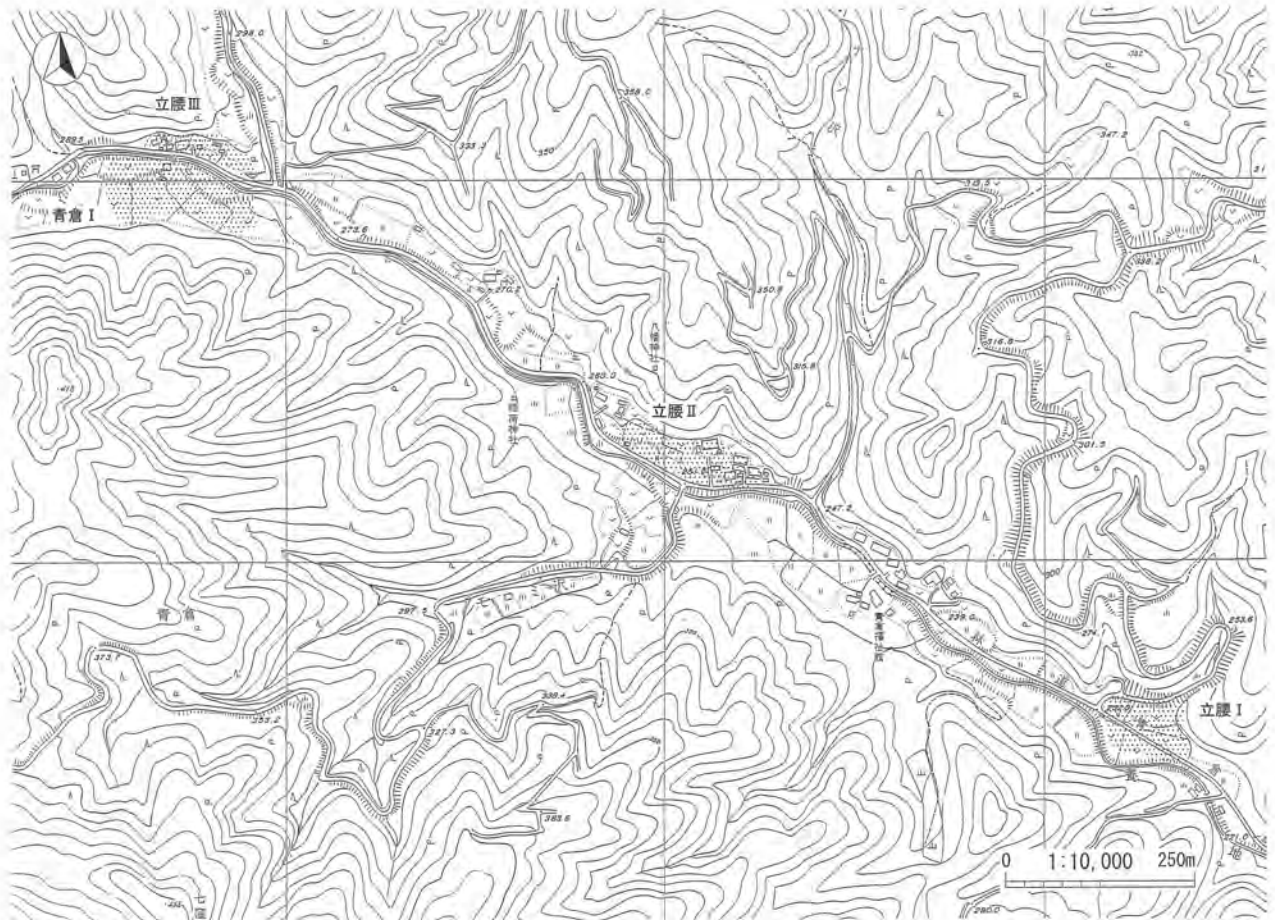
新たに確認された遺跡である。集落の西側にあり、養呂地川左岸のわずかな平坦地が遺跡と考えられる。現況は宅地、一部が畑地として残っている。畑地で縄文土器を少量採取した(5)。採取した土器から時期を特定することはできなかった。住民からの聞き取りによると以前石鏃も見られたとのことである。

[時代] 縄文時代 [種別] 散布地 [採取遺物] 縄文土器

● <sup>あおくら 1</sup>青倉 I 遺跡 (遺跡コード KG92-1158) (所在地 田老字青倉)

集落の西側、養呂地川の右岸にある。遺跡の南側は、丘陵が近年に農地として削平された可能性が考えられる。遺物は遺跡の中央付近で縄文土器を少量採取するも、小破片のため時期の特定はできなかった。遺跡の範囲は、遺物が採取できた地点と同地形と想定できる位置までとした。

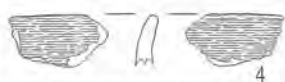
[時代] 縄文時代 [種別] 散布地 [採取遺物] 縄文土器



第14図 立腰地区・青倉地区遺跡分布図



第15図 立腰 I 遺跡採取遺物



第16図 立腰 II 遺跡採取遺物



第17図 立腰 III 遺跡採取遺物



写真図版12 立腰 I・II・III 遺跡採取遺物



写真図版13 青倉I・立腰Ⅲ遺跡遠景(東から)  
(中央が青倉I遺跡。)



写真図版14 立腰I遺跡 現況(西から)  
(中央の畑地が遺跡。)



写真図版15 立腰Ⅱ遺跡 現況(東から)  
(中央の畑地が遺跡。)

## 和蒔地区・八幡水神地区 (第18、19図・写真図版16)

### ● 神田北遺跡 (遺跡コード KG93-2332) (所在地 田老字和蒔)

神田集落の北側にある。小高い丘とその周囲の低地が遺跡と考えられる。現況は、丘は雑木林、低地は畑地と住宅地になっている。丘の南側の畑地で縄文土器が採取でき、その北側の畑地でも縄文土器を少量採取する。1、2は縄文中期の土器である。遺跡の範囲について、従来より北側と南側に拡張する。

[時代] 縄文時代(中期) [種別] 散布地 [採取遺物] 縄文土器

### ● 神田南遺跡 (遺跡コード KG93-2362) (所在地 田老字八幡水神)

神田集落から神田川を挟み南側にある。神田川に直交するように向う谷部分が遺跡と考えられる。現況は山林となっており、遺物は採取できなかった。ただし、昭和36年の分布調査では縄文中期の土器や石器を採取したという記録が残っている。遺跡の範囲について今回の調査によりその範囲を限定した。

[時代] 不明(縄文時代か) [種別] 散布地か [採取遺物] なし

### ● 八幡水神 I 遺跡 (遺跡コード KG93-2364) (所在地 田老字八幡水神)

新たに確認された遺跡である。神田南遺跡から小高い丘を挟み東側の谷部分が遺跡と考えられる。現況はきのこの栽培地である。遺物は畑地の管理用道路の脇で鉄滓を少量採取した。住民によれば、遺跡南側にある鳥居の東側で土地改良が行われた際、多量の土器が出土したとのことである。

[時代] 古代以降 [種別] 散布地 [採取遺物] 鉄滓

### ● 館遺跡 (遺跡コード KG93-2367) (所在地 田老字八幡水神)

南側に長く突き出た丘陵の先端部が遺跡と考えられる。現況は、丘陵の高所部分が墓地、そのほかは山林となっている。遺物は採取できなかった。遺跡名から中世の城館跡と考えられるが、墓地の南東側に平坦な地形が見られるだけで堀跡等の痕跡は確認できなかった。

[時代] 不明(中世か) [種別] 城館跡か [採取遺物] なし

## 向桑畑地区 (第20、21図・写真図版17～19)

### ● ハツ石遺跡 (遺跡コード KG93-2030) (所在地 田老字向桑畑)

養呂地川の左岸、谷部分が遺跡と考えられる。現況は遺跡の西側が水田、東側が畑地となっている。遺跡の南端は宅地に改変されている。畑地で縄文土器(1～4)、遺跡の中央付近で多量の鉄滓を採取する。土器から時期の特定はできなかった。付近の住民から農作業中に採

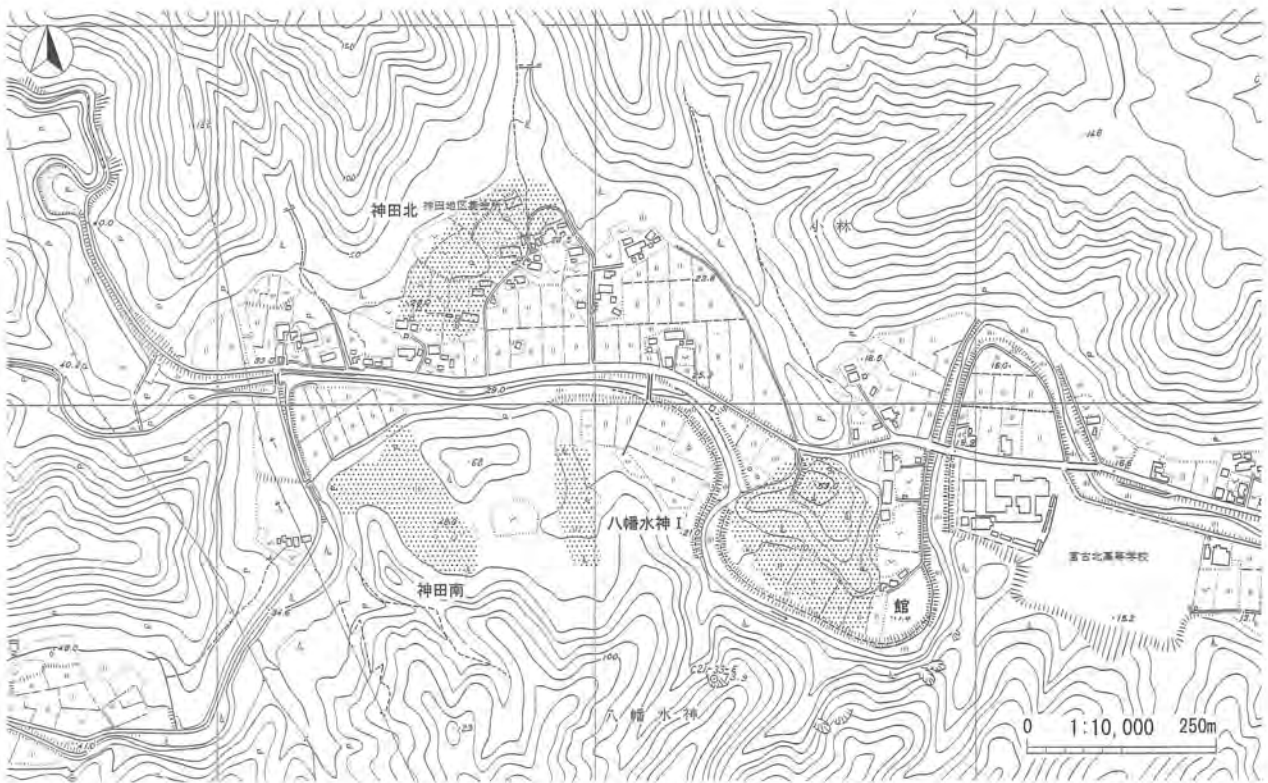
取したという石器を示される。遺跡の範囲について、養呂地川に面する地点を新たにその範囲に加えた。

[時代] 縄文時代、古代以降 [種別] 散布地 [採取遺物] 縄文土器、石器、鉄滓

●<sup>むかいわた</sup>向桑畑 I 遺跡 (遺跡コード KG93-2055) (所在地 田老字向桑畑)

新たに確認された遺跡である。八ツ石遺跡から丘陵を挟んで東側にあり、養呂地川の左岸の谷部分が遺跡と考えられる。現況は畑地であり、遺物は鉄滓を採取した。鉄滓は遺跡内に広く散布し、特に遺跡の中央付近に多い。

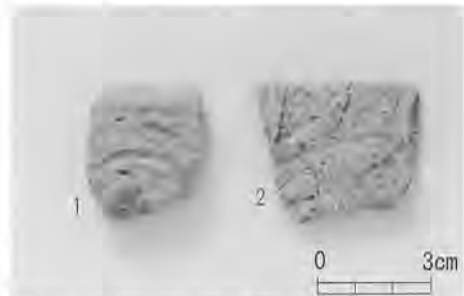
[時代] 古代以降 [種別] 散布地 [採取資料] 鉄滓



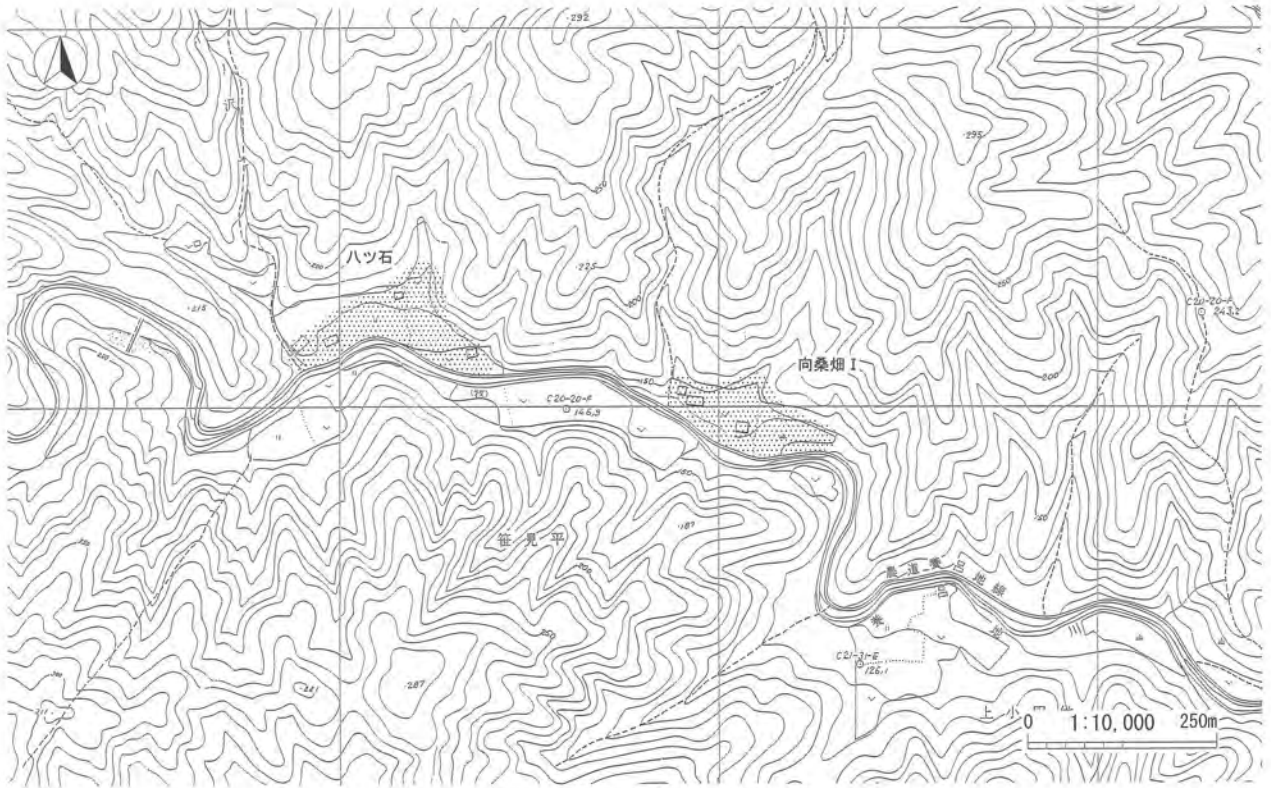
第18図 和蒔地区・八幡水神地区遺跡分布図



第19図 神田北遺跡採取遺物



写真図版16 神田北遺跡採取遺物



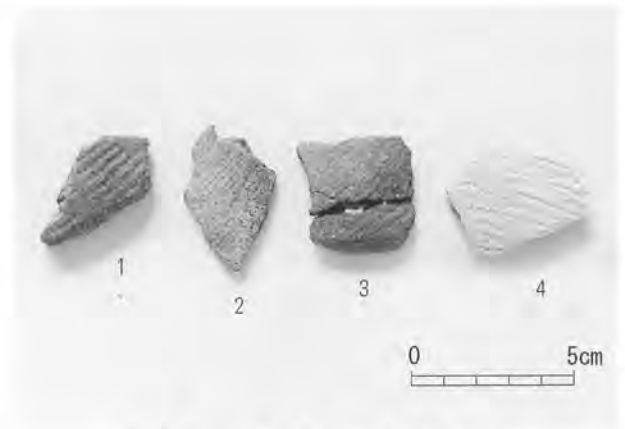
第20図 向桑畑地区遺跡分布図



第21図 ハツ石遺跡採取遺物



写真図版17 ハツ石遺跡 現況(南から)



写真図版18 ハツ石遺跡採取遺物





写真図版19 向桑畑 I 遺跡 現況 (西から)  
(一帯が遺跡と考えられる。)

ささみだいら かんこだしろ しのくら  
**笹見平地区(1)・上小田代地区(1)・篠倉地区** (第22図・写真図版20)

● <sup>ささみだいら1</sup> 笹見平 I 遺跡 (遺跡コード LG02-0325) (所在地 田老字笹見平)

新たに確認された遺跡である。小田代川の左岸、南向きの緩い斜面が遺跡と考えられる。遺跡の北側を小田代線林道が通っている。現況は畑地であり、遺物は鉄滓が採取できる。鉄滓は遺跡内に広く散布し特に遺跡の中央付近に多い。

[時代] 古代以降 [種別] 散布地 [採取遺物] 鉄滓

● <sup>ささみだいら2</sup> 笹見平 II 遺跡 (遺跡コード LG02-0313) (所在地 田老字笹見平)

新たに確認された遺跡である。笹見平 I 遺跡から丘陵を挟んで西側にあり、小田代川の左岸の谷部分が遺跡と考えられる。小田代線林道が遺跡を南北に分断するように通る。現況は林道を境に北側は宅地、南側は畑地となっている。遺物は南側の畑地で鉄滓が採取できる。遺物は部分的に散布する状況であった。

[時代] 古代以降 [種別] 散布地 [採取資料] 鉄滓

● <sup>かんこだしろ1</sup> 上小田代 IV 遺跡 (遺跡コード LG03-0021) (所在地 田老字上小田代)

新たに確認された遺跡である。笹見平 I 遺跡から丘陵を挟んで東側にあり、小田代川の左岸の谷部分が遺跡と考えられる。遺跡の中央を小田代線林道が通っている。現況は林道を境に北側は宅地、南側は畑地となっている。遺物は南側の畑地で鉄滓が採取できる。遺物は遺跡内で部分的に散布する状況であった。

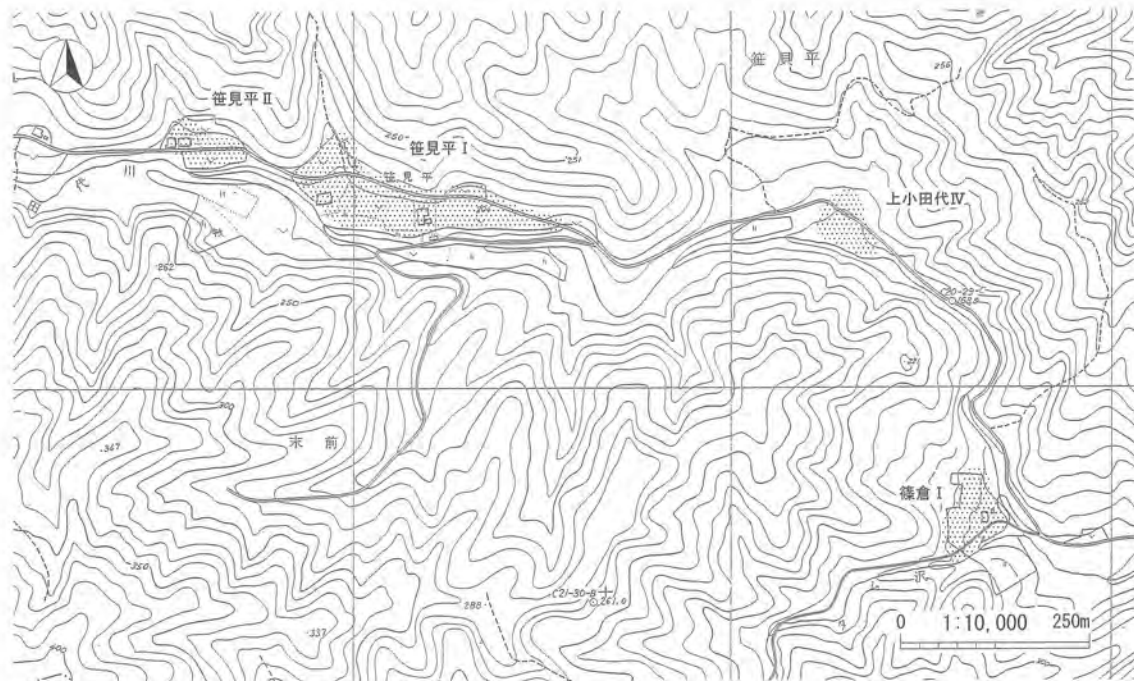
[時代] 古代以降 [種別] 散布地 [採取資料] 鉄滓

● 篠倉 I 遺跡 (遺跡コード LG03-0063) (所在地 田老字篠倉)

新たに確認された遺跡である。小田代川の左岸、小田代川と沢の合流点に遺跡は立地する。現況は宅地と畑地となっている。遺物は鉄滓が採取でき、遺跡内に広く散布する状況であった。

遺跡の範囲について、谷部分をその範囲とした。

[時代] 古代以降 [種別] 散布地 [採取資料] 鉄滓



第22図 笹見平地区(1)・上小田代地区(1)・篠倉地区遺跡分布図



写真図版20 笹見平 I 遺跡採取遺物

ななたき ささみたら  
**七滝地区・笹見平地区(2)** (第23～25図・写真図版21～23)

たてもり  
 ● **館森遺跡** (遺跡コード KG92-2163) (所在地 田老字七滝)

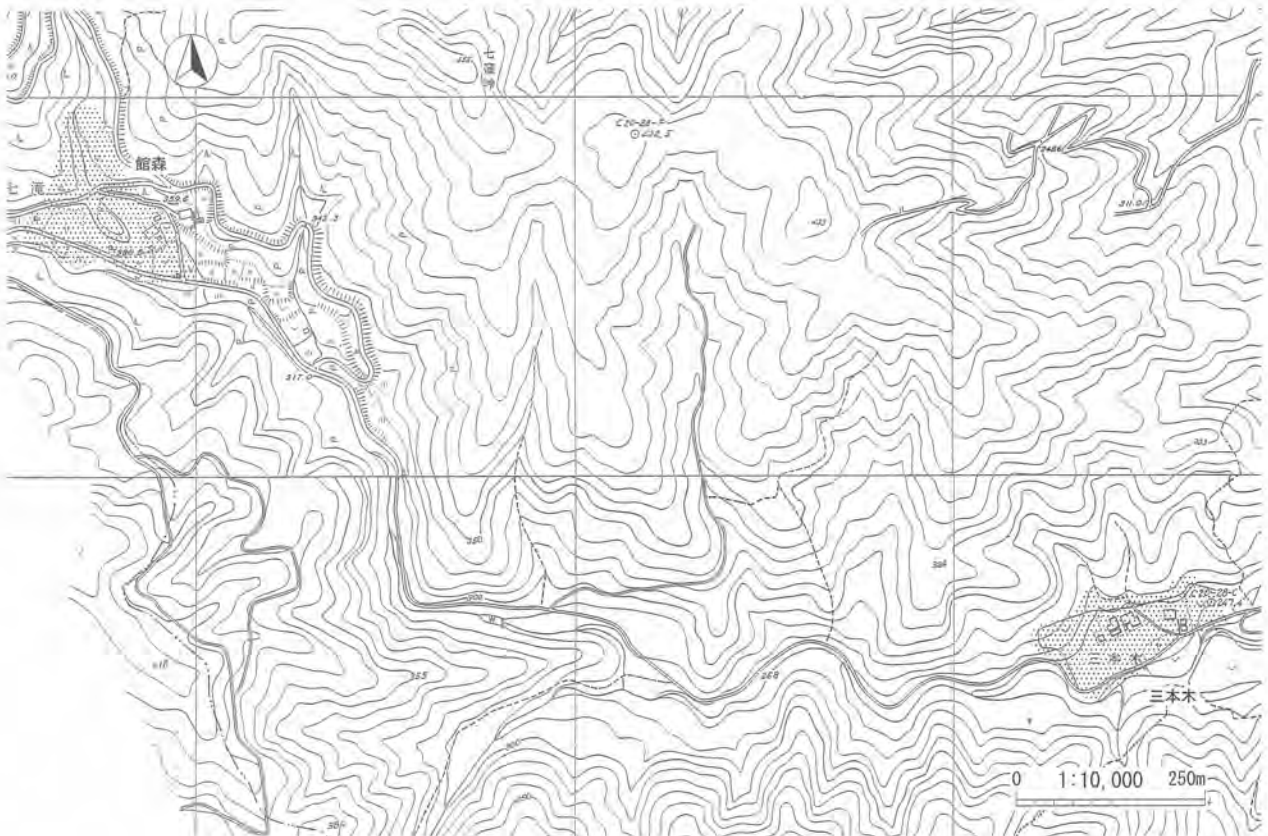
小田代川の左岸にあり、丘陵末端部分とその東側の谷部分が遺跡と考えられる。現況は丘陵部分は雑木林、谷部分は宅地と畑地となっている。丘陵部分では、その頂部を囲うように堀状の地形が確認できる。遺物は、畑地で縄文土器(1～3)を採取する。3は縄文時代後期以降の土器である。聞き取りで宅地を造成した際にその北側で多量の土器が出土したとのこと。遺跡は七滝の館とも言われている。

[時代] 縄文時代(後期)、中世 [種別] 散布地、城館跡 [採取遺物] 縄文土器

さんぼんき  
 ● **三本木遺跡** (遺跡コード LG02-0227) (所在地 田老字笹見平)

小田代川の左岸、北から小田代川に向う緩い斜面が遺跡と考えられる。現況は畑地となっている。遺物は縄文土器(4、5)と少量ではあるが鉄滓を採取した。採取した土器から時期の特定はできなかった。遺跡の範囲について、北側の斜面部分を除外した。

[時代] 縄文時代、古代以降 [種別] 散布地 [採取遺物] 縄文土器、鉄滓



第23図 七滝地区・笹見平地区(2)遺跡分布図



第24図 館森遺跡採取遺物



第25図 三本木遺跡採取遺物



写真図版21 館森遺跡 遠景(東から)



写真図版22 館森遺跡 堀状跡(東から)



写真図版23 三本木遺跡 遠景(東から)  
(写真中央が遺跡。)

ようろち かみこだしり こだしり たつ くち  
養呂地地区・上小田代地区(2)・小田代地区・辰の口地区 (第26～31図・写真図版24～30)

● 養呂地Ⅰ遺跡 (遺跡コード KG93-2198) (所在地 田老字養呂地)

養呂地遺跡から名称変更する。養呂地川の左岸にあり谷部分が遺跡と考えられる。現況は、遺跡南側の川沿いは宅地、北側は畑地となっている。畑地から縄文土器(1、2)と鉄滓を採取する。2は縄文時代後期の土器と考えられる。遺跡内の個人宅でタタラバという屋号を聞き取る。

遺跡の範囲について、遺物を採取した地点や地形から南側にその範囲を拡張する。

[時代] 縄文時代(後期)、古代以降 [種別] 散布地 [採取遺物] 縄文土器、鉄滓

● タタラ石遺跡 (遺跡コード KG93-2291) (所在地 田老字養呂地)

周知遺跡であり、養呂地川の左岸、河川に面した低地が遺跡と考えられる。現況は宅地と水田で、一部畑地となっている。遺物は鉄滓が採取できる。遺跡中央付近、道路(養呂地線農道)に面した畑地で鉄滓がまとまって多量に散布する。

遺跡の範囲について、遺物を採取した地点や地形から東側にその範囲を拡張する。

[時代] 古代以降 [種別] 散布地 [採取遺物] 鉄滓

● 養呂地Ⅱ遺跡 (遺跡コード KG93-2195) (所在地 田老字養呂地)

新たに確認された遺跡である。養呂地川の左岸、河川に面した谷部分が遺跡と考えられる。現況は畑地で一部宅地となっている。遺物は少量ではあるが鉄滓を採取する。

遺跡の範囲について、遺物を採取した地点や地形からおおむね谷部分をその範囲とする。

[時代] 古代以降 [種別] 散布地 [採取遺物] 鉄滓

● 上小田代Ⅰ遺跡 (遺跡コード LG03-0168) (所在地 田老字上小田代)

小田代遺跡から名称変更する。小田代川の左岸にあり、谷部分が遺跡と考えられる。現況は、水田で一部畑地となっている。遺物は、遺跡の北側と東側で縄文土器(5、6)と土師器(甕・胴部・7)、鉄滓を採取する。縄文土器は小破片のため時期の特定はできなかった。土師器は内外面ともに摩滅する。住民から、遺跡内に以前フイゴ座があったこと、その西側の沢に多量の鉄滓が散布していたことを聞き取る。また農地造成で大きく改変されていることを聞き取る。

遺跡の範囲について、遺物を採取した地点や地形からおおむね谷部分をその範囲とする。また、従前の範囲から南側と北側を拡張する。

[時代] 縄文時代、古代以降 [種別] 散布地 [採取遺物] 縄文土器、土師器、鉄滓

●<sup>かみこだしらる</sup>上小田代Ⅱ遺跡 (遺跡コードLG03-0200)(所在地 田老字上小田代)

新たに確認された遺跡である。養呂地川の右岸、河川に面した谷部分が遺跡と考えられる。現況は水田、畑地、草地となっている。遺物は遺跡の中央付近で鉄滓、西側の養呂地峠に向う道路に面した畑地から少量ではあるが縄文土器と鉄滓を採取する。土器は小破片のため時期を特定することができなかった。

遺跡の範囲について、遺物を採取した地点や地形から谷部分をその範囲とする。

[時代] 縄文時代、古代以降 [種別] 散布地 [採取遺物] 縄文土器、鉄滓

●<sup>かみこだしらる</sup>上小田代Ⅲ遺跡 (遺跡コードLG03-0107)(所在地 田老字上小田代)

新たに確認された遺跡である。養呂地川の右岸、上小田代Ⅱ遺跡から丘陵を挟んで西側にある。河川に面した谷部分が遺跡と考えられる。現況は雑木林で一部畑地となっている。遺物は、遺跡東側で縄文土器(8~10)を採取する。採取した土器から時期を特定することはできなかった。

[時代] 縄文時代 [種別] 散布地 [採取遺物] 縄文土器

●<sup>こだしらる</sup>小田代Ⅰ遺跡 (遺跡コードLG03-0272)(所在地 田老字小田代)

新たに確認された遺跡である。小田代川の右岸、上小田代Ⅰ遺跡から丘陵を挟んで東側にある。小田代川と養呂地峠から流れる沢の合流点に立地する。現況は宅地で一部畑地となっている。遺物は縄文土器、弥生土器、鉄滓を採取する。4は弥生土器である。縄文土器は小破片のため、時期の特定はできなかった。鉄滓は遺跡内の所々で採取することができる。住民から、小田代上の橋の北側にある畑地で造成により多量の鉄滓が出土したことを聞き取る。

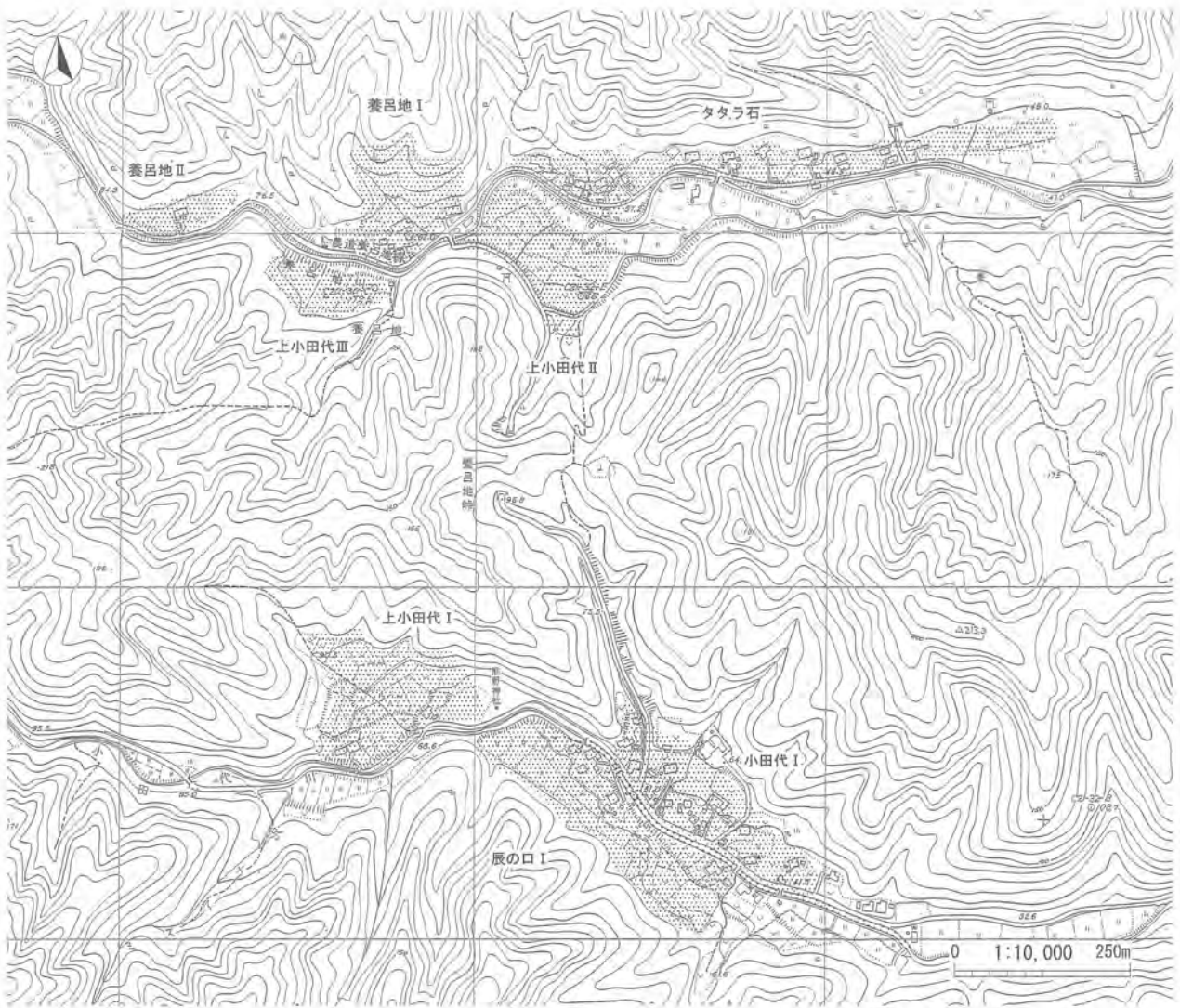
遺跡の範囲について、遺物を採取した地点や地形から谷部分をその範囲とする。

[時代] 縄文時代、弥生時代(前期)、古代以降 [種別] 散布地 [採取遺物] 縄文土器、弥生土器、鉄滓

●<sup>たつ</sup>辰の口Ⅰ遺跡 (遺跡コードLG03-0271)(所在地 田老字辰の口)

新たに確認された遺跡である。小田代川の右岸、小田代Ⅰ遺跡から小田代川を挟んで南側にある。現況は、河川に面して宅地になっているほかは畑地である。遺物は縄文土器(3)と、遺跡の東側で鉄滓を採取する。遺跡の範囲について、遺物を採取した地点や地形から谷部分をその範囲とする。

[時代] 縄文時代、古代以降 [種別] 散布地 [採取遺物] 縄文土器、鉄滓



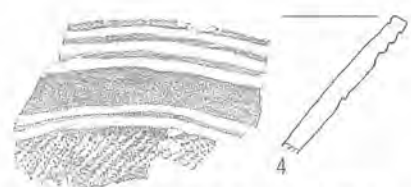
第26図 養呂地地区・上小田代地区(2)・小田代地区・辰の口地区遺跡分布図



第27図 養呂地 I 遺跡採取遺物



第28図 辰の口 I 遺跡採取遺物



第29図 小田代 I 遺跡採取遺物



第30図 上小田代 I 遺跡採取遺物



第31図 上小田代 III 遺跡採取遺物

0 1 : 3 5cm



写真図版24 採取遺物



写真図版25 小田代地区 遠景(東から)  
(中央が小田代Ⅰ、辰の口Ⅰ、上が上  
小田代Ⅰ遺跡)



写真図版26 養呂地地区 遠景(東から)  
(中央がタタラ石遺跡、上が上小田代Ⅱ、  
養呂地Ⅰ遺跡)



写真図版27 上小田代Ⅲ遺跡 現況(西  
から)





写真図版28 上小田代Ⅱ遺跡 現況(東から)



写真図版29 辰の口Ⅰ遺跡 現況(北から)



写真図版30 上小田代Ⅰ遺跡 現況(西から)

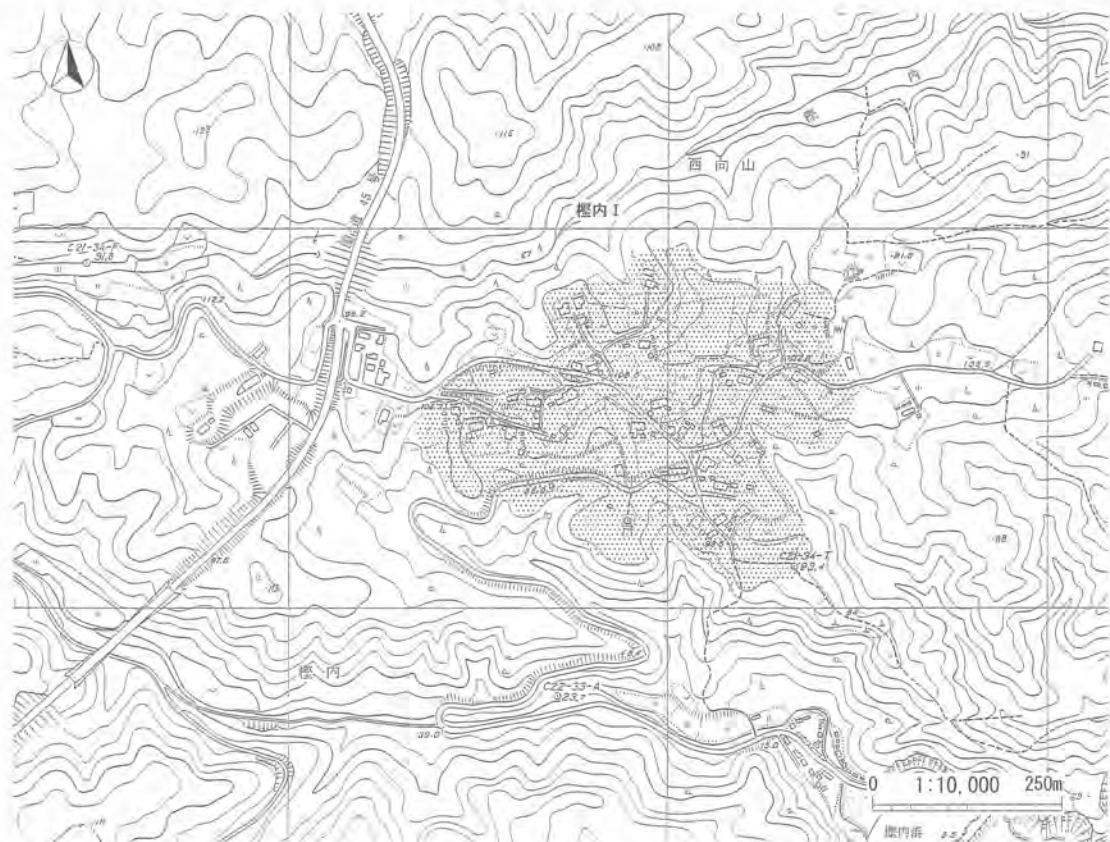
かしない にしむかいやま  
榎内地区・西向山地区 (第32～34図・写真図版31～33)

● 榎内 I 遺跡 (遺跡コード LG04-1179) (所在地 田老字榎内 外)

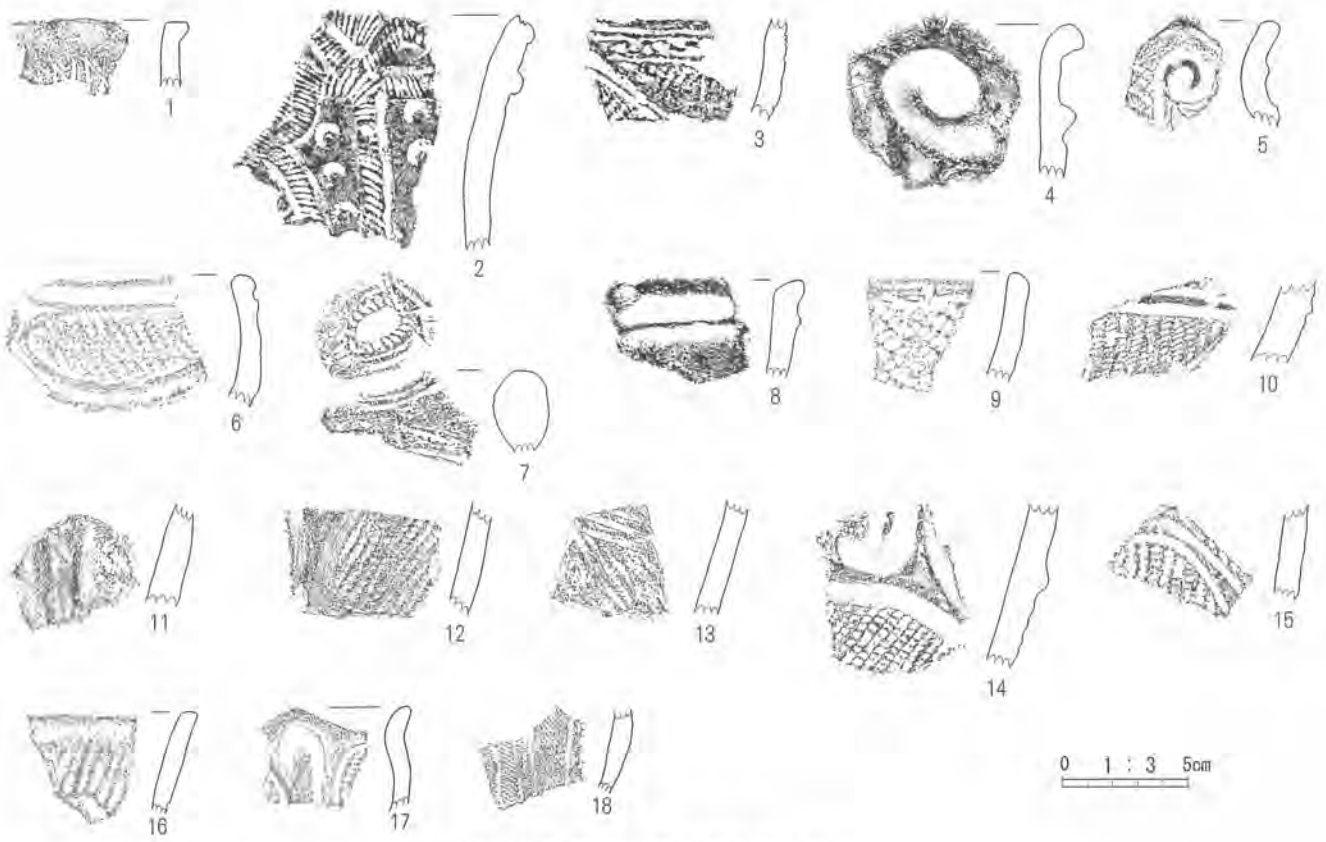
国道45号の東側、東に向う丘陵に立地する。現況は宅地と畑地である。遺物は榎内地区集会所(旧田老第一小学校榎内分校)の東側と日月山神社の東側の畑地から多量の縄文土器や石器を採取する。このほか周辺にある畑地でも縄文土器が散布している。縄文土器は、1が前期、2～7が中期、17、18が後期と考えられる。図示した石器は遺跡の地権者より寄贈された資料である。住民への聞き取りで、本遺跡は以前から土器や石器が散布する場所として知られていたようである。

榎内 I 遺跡は、従来榎内里遺跡、榎内沖遺跡として登録されていたものを今回の調査により一つの遺跡としてまとめたものである。両遺跡は地形的に連続した位置にあり、かつ近接していることからこれを統合し、併せて遺物の散布状況から範囲を拡張した。

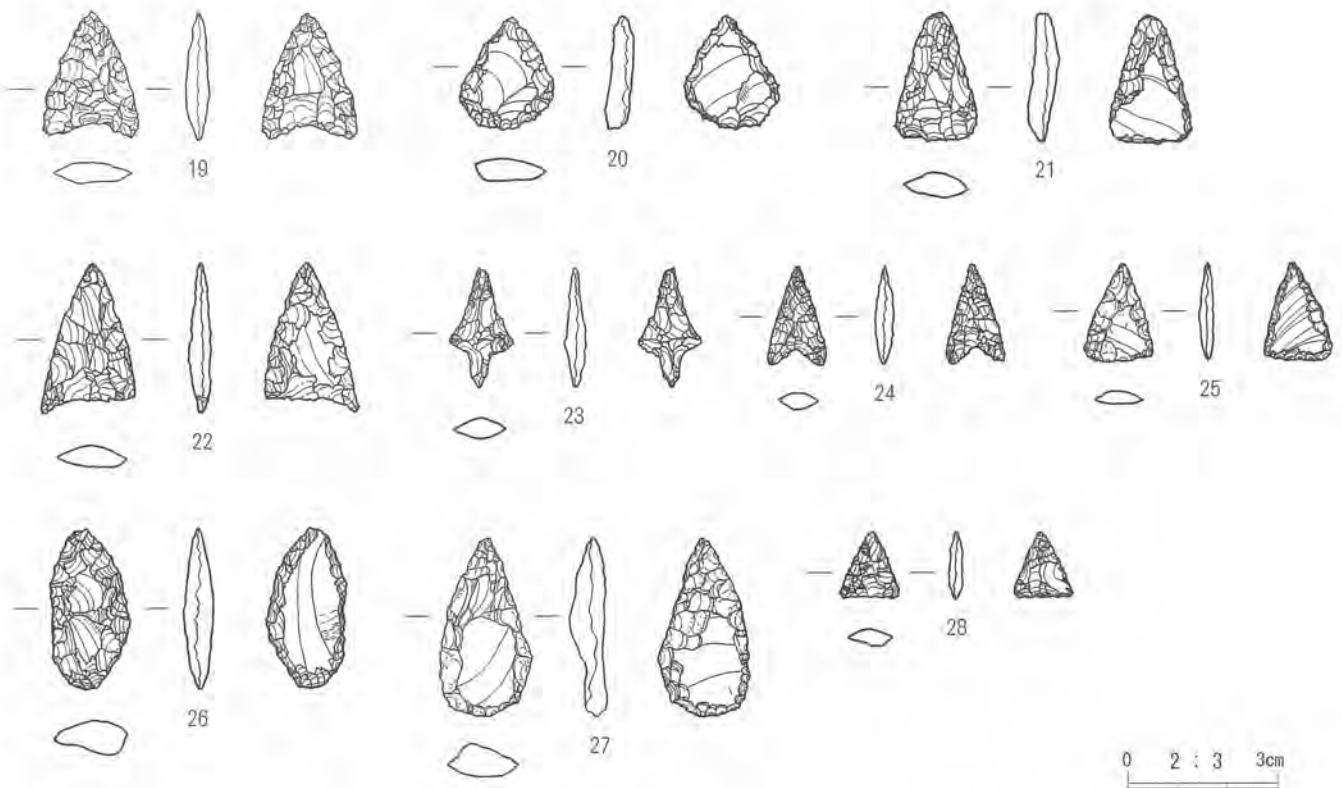
[時代] 縄文時代(前期・中期・後期) [種別] 散布地 [採取遺物] 縄文土器、石器



第32図 榎内 I 遺跡分布図



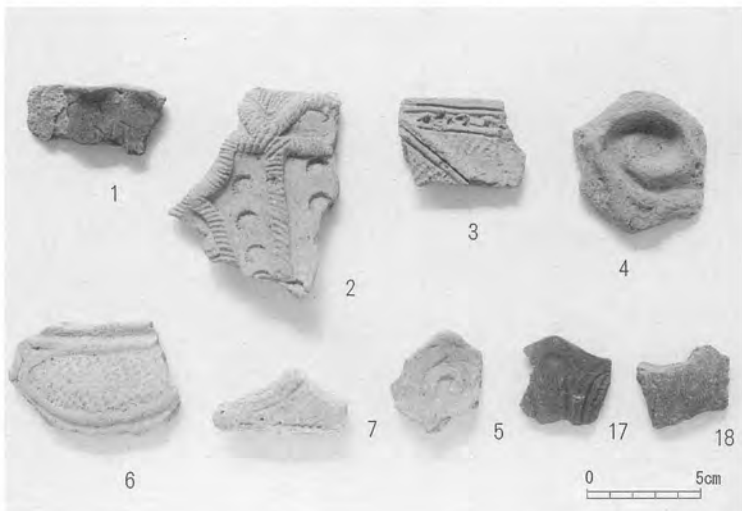
第33図 檜内 I 遺跡採取遺物(1)



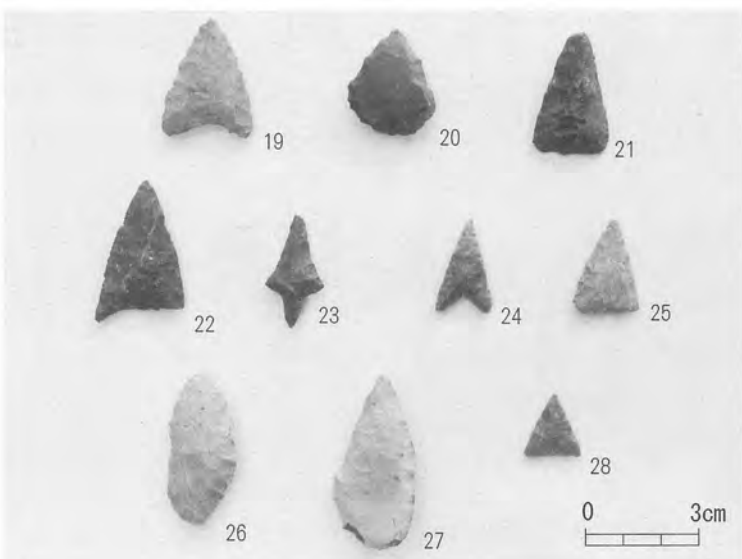
第34図 檜内 I 遺跡採取遺物(2) (石鏃)  
(遺跡地権者提供)



写真図版31 檜内遺跡 I 遠景 (南から)



写真図版32 檜内 I 遺跡採取遺物 (1)



写真図版33 檜内 I 遺跡採取遺物 (2)

# 報 告 書 抄 録

ふりがな	みやこしいせきぶんぶちょうさほうこくしょ5
書名	宮古市遺跡分布調査報告書5
副書名	
巻次	
シリーズ名	宮古市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	75
編著者名	安原 誠
編集機関	宮古市教育委員会
所在地	〒028-2101 岩手県宮古市茂市2-112-1 TEL0193-72-2175 Fax0193-72-2176
発行年月日	平成20(2008)年3月26日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° / ′	東経 ° / ′	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
越田松長根I遺跡、青砂里I遺跡、真崎遺跡、末前I、II、III、IV、V遺跡、立腰I、II、III遺跡、青倉I遺跡、神田北遺跡、神田南遺跡、八幡水神I遺跡、館遺跡、ハツ石遺跡、向桑畑I遺跡、笹見平I、II遺跡、上小田代I、II、III、IV遺跡、篠倉I遺跡、館森遺跡、三本木遺跡、養呂地I、II遺跡、タタラ石遺跡、小田代I遺跡、辰の口I遺跡、檜内I遺跡	岩手県宮古市田老字越田、駿達、和野、乙部、西向山、青砂里、末前、和山、立腰、青倉、和蒔、八幡水神、向桑畑、笹見平、上小田代、篠倉、七滝、養呂地、小田代、辰の口、檜内	03202	KG94-0273 ほか			181220 ~190125		

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
同上	散布地	縄文時代 弥生時代 古代 中世		縄文土器、弥生土器、石器、土師器、鉄滓	

# 宮古市埋蔵文化財調査報告書一覽

- 1 1979 『宮古市大付遺跡発掘調査報告書』
- 2 1980 『宮古市千徳遺跡発掘調査概報』
- 3 1983 『宮古市遺跡分布調査報告書1』
- 4 1984 『宮古市遺跡分布調査報告書2』
- 5 1984 『赤前遺跡群第1次・第2次発掘調査報告書』
- 6 1985 『宮古市遺跡分布調査報告書3』
- 7 1985 『金浜館跡発掘調査報告書』
- 8 1986 『宮古市遺跡分布調査報告書4』
- 9 1986 『宮古市遺跡分布図-昭和60年度版-』
- 10 1986 『中谷地・島田遺跡調査報告書』
- 11 1987 『崎山貝塚・トロノ木IV遺跡調査報告書』
- 12 1987 『寒風・早稲橋IV遺跡調査報告書』
- 13 1987 『崎山遺跡群I-昭和61年度発掘調査概報-』
- 14 1988 『青猿I・下在家II・千徳城遺跡群(堀合館)』
- 15 1988 『崎山遺跡群II-昭和62年度発掘調査概報-』
- 16 1989 『千鶴遺跡-昭和62年度発掘調査報告書-』
- 17 1989 『トロノ木I遺跡-第1~7次発掘調査報告書-』
- 18 1989 『崎山遺跡群III-昭和63年度発掘調査概報-』
- 19 1989 『高根遺跡-昭和63年度発掘調査報告書-』
- 20 1989 『狐崎II遺跡-昭和63年度発掘調査報告書-』
- 21 1989 『崎山トロノ木IV遺跡-昭和63年度調査報告書-』
- 22 1990 『狐崎遺跡-平成元年度発掘調査報告書-』
- 23 1990 『崎山遺跡群IV-平成元年度発掘調査概報-』
- 24 1990 『磯鷗館山遺跡-昭和63年度発掘調査報告書-』
- 25 1990 『鎌ヶ崎館山貝塚-平成元年度発掘調査報告書-』
- 26 1991 『崎山遺跡群V-平成2年度発掘調査概報-』
- 27 1991 『青猿I・千徳城遺跡群-平成元年・2年度発掘調査報告書-』
- 28 1990 『熊野町遺跡-昭和63年度発掘調査報告書-』
- 29 1991 『弘川I遺跡-平成2年度発掘調査報告書-』
- 30 1992 『金浜I遺跡(昭和58年度)・大付遺跡(平成2年度)発掘調査報告書』
- 31 1992 『重茂館遺跡群-第1次調査報告書-』
- 32 1992 『黒森町I遺跡-平成2年度発掘調査報告書-』
- 33 1992 『高根遺跡-平成3年度発掘調査報告書-』
- 34 1992 『鰐沢遺跡群-平成2年度発掘調査報告書-』
- 35 1992 『大付遺跡-平成3年度発掘調査報告書-』
- 36 1992 『細越I遺跡・芋野II遺跡-農林課関係田代地区埋蔵文化財発掘調査報告書-』
- 37 1992 『崎山遺跡群VI-平成3年度発掘調査概報-』
- 38 1993 『萩沢II遺跡-平成4年度発掘調査報告書-』
- 39 1993 『早稲橋II遺跡-第1次・第2次発掘調査報告書-』
- 40 1993 『崎山遺跡群VII-平成4年度発掘調査概報-』
- 41 1994 『崎山遺跡群VIII-平成5年度発掘調査概報-』
- 42 1995 『赤前I牛子沢遺跡-平成4年度発掘調査報告書-』
- 43 1995 『磯鷗館山遺跡発掘調査報告書』
- 44 1995 『崎山貝塚-範囲確認調査報告書-』
- 45 1995 『笹沢I・加村・仲組III・堺ノ神遺跡-市道浦の沢線改良工事関係埋蔵文化財』
- 46 1995 『原市遺跡-平成4年度発掘調査報告書-』
- 47 1995 『宮古市内遺跡発掘調査概報I 早稲橋II遺跡・崎山貝塚』
- 48 1996 『大付遺跡-平成5年・6年度発掘調査報告書-』
- 49 1997 『花原市遺跡-平成8年度発掘調査報告書-』
- 50 1997 『白石遺跡-第6次発掘調査報告書-』
- 51 1998 『赤畑・天神山・山口館-北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書-』
- 52 1998 『藤畑遺跡-平成9年度発掘調査報告書-』
- 53 1999 『赤前III・赤前IV八枚田・赤前V柳沢・赤前VI釜屋ヶ沢・小堀内III遺跡-水産課津軽石環境整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書-』
- 54 1999 『千鶴IV遺跡-水産課千鶴地区漁港漁村総合整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書-』
- 55 1999 『崎山貝塚-第12次・13次内容確認調査概報-』
- 56 2000 『木戸井内II・木戸井内III・上村III遺跡-特別高圧送電線ラック工業宮古支線新設工事関係埋蔵文化財調査報告書-』
- 57 2002 『山口館跡-北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書-』
- 58 2002 『沢II大上遺跡-市内遺跡発掘調査報告書2-』
- 59 2003 『大又沢II遺跡-東北電力宮古ヘリポート移設工事関係発掘調査報告書-』
- 60 2003 『上根井沢I遺跡・沼里遺跡-市内遺跡発掘調査報告書3-』
- 61 2003 『早稲橋II遺跡第6次調査-市内遺跡発掘調査報告書4-』
- 62 2003 『下在家I遺跡-平成14年度発掘調査報告書-』
- 63 2004 『大程II遺跡・平浜遺跡-市道阴伊崎線改良工事関係発掘調査報告書-』
- 64 2005 『弘川館跡-瑞雲寺裏庭整備関係発掘調査報告書-』
- 65 2006 『高浜VI地神遺跡-高浜四丁目宅地造成工事関係発掘調査報告書-』
- 66 2006 『崎山貝塚第20次調査・早稲橋II遺跡第7次調査-市内遺跡発掘調査報告書5-』
- 67 2006 『八木沢古館 八木沢中田遺跡 八木沢駒込I遺跡-市道岸ノ前ラントノ沢線道路工事関係 発掘調査報告書-』
- 68 2006 『木戸井内IV遺跡-宮古市生活課市営火葬場整備事業関係発掘調査報告書-』
- 69 2006 『菅ノ沢遺跡発掘調査-市内遺跡発掘調査報告書6-』
- 70 2007 『山口館跡-市道北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書-』
- 71 2007 『近内館跡-宮古市都市計画課近内地区土地区画整理事業関係発掘調査報告書-』
- 72 2007 『牛沢遺跡・大付遺跡第11次調査-市内遺跡発掘調査報告書7-』
- 73 2007 『弘川館跡第2次調査-宗教法人瑞雲寺住宅建築工事地区発掘調査報告書-』
- 74 2008 『荷竹日向IV遺跡-市道向川原荷竹線道路工事関係発掘調査報告書-』

---

## 宮古市埋蔵文化財調査報告書75

### 宮古市遺跡分布調査報告書5

印刷・発行 平成20(2008)年3月

発行 宮古市教育委員会

〒028-2101 岩手県宮古市茂市2-112-1

TEL 0193-72-2175 Fax 0193-72-2176

印刷 有限会社 宮古プリント

岩手県宮古市宮町1丁目3-33

---



